

令和7年度事業実績報告書

令和 8年 4月 30日

愛媛県議会議員 松尾 和久 様

議員氏名 兵頭 竜



主な政務活動の実施状況について、次のとおり報告します。

1 調査研究の概要

別紙の通り

2 その他の政務活動の概要

別紙の通り



令和 7 年度事業実績報告書

◎財政問題

地元西予市で財政危機宣言が出され、市内外に衝撃が走った。理事者は市内全域で説明会を開催し、市民の理解を図ったが、過去にあった夕張市を連想する市民も少なくなかった。その中で、住民感情の状況を収集しながら、将来への不安払拭するための施策を合わせて協議した。

現況の中で補助金カットをはじめ、団体や住民にとって厳しい物事を突き付けられている。とりわけ、イベントの補助金カットは開催の有無に発展しており、その名で生まれている地域活力に影響を与える可能性があるが、関係者は毎年開催から隔年開催にシフトしたり、規模縮小での開催をするなどして、つながりを持てるように試行錯誤している。

また、西予市職員の給与カットに踏み込んだ件は、議会が否決した。裁定案は修正され管理職手当のカットという形で落ち着いた。物価高騰が続く中、市職員の給与がカットされなかったことは良しとすべきことであると感じているが、年間 7,000 万円程度の削減が見込まれていたことを考えると代替案も考えていかなければならない。

このような状況の中で、ふるさと納税の積極的な PR で収入の増額を図っている。R8 年 2 月に東京で行われた、『西予市ファンミーティング』に参加し、西予市出身者や西予市に進出している企業の関係者と西予市の将来について意見交換を図った。その中で、企業版ふるさと納税の要請も行い、実績も上がっていることは前向きにとらえている。過去には考えられなかった行政が稼ぐといった部分に踏み込み、成果が見えてきており、今後の展開が期待される。私の立場からもその一助となるよう尽力したい。

◎県立学校の存続

人口減少・少子化によって大きな影響を受けている県立学校の存続問題は各学校が生き残りをかけて、待ったなしの状態となっている。地域から学校が失われると、地域の活力に大きな打撃を与えることは言うまでもないが、一定の競争力がある教育環境を考えると統廃合は避けて通れない。近隣では八幡浜・八幡浜工業・川之石が統合して新しいスタートを切った。

西予市では三瓶高校が 100 年の歴史に終止符を打ち廃校となったが、跡地は利活用が見出せず、今後の大きな課題である。宇和高校は男子駅伝部が全国大会に出場し、令和 8 年度は男女合わせて 20 人を超える新入部員を迎えた。これも、毎週 1 回、社会人・高校生・小中学生が合同でトレーニングを行い、その参加者の枠は西予市にとどまらず、南予一円から参加している。このような取り組みが

全国大会出場や部員・生徒確保につながっており、今後も期待している。また、陸上・駅伝部に続く柱を見いだせれば今後の存続問題に寄与することが考えられる。

野村高校は県内唯一の畜産科を有し、全国募集で生徒確保を図っている。新たに設置された動物園では、リクガメの飼育やトカゲなどの爬虫類に飼いはじめ、新たな魅力を発信している。さらに、カブトムシやクワガタの飼育も始める予定で、唯一無二で全国にアピールし、更なる上積みを図らなければならない。

いずれにしても、厳しい状況には変わりなく私の立場からも一助になれるよう微力を尽くしていく。

◎スポーツマスターズ

9月に日本スポーツマスターズ2025愛媛大会が開催された。本大会は、競技志向の高いシニア世代を対象とした総合スポーツ大会で、本県では初の開催となる。若い世代とは異なる魅力的な競技スタイルや戦略が見られるだけでなく、元オリンピック選手や国際大会出場者と地域で活躍してきた選手によるハイレベルな試合が観戦できる絶好の機会であるとともに、幅広い年齢層の選手が一堂に会することで、世代を超えたスポーツの魅力を再発見できる貴重な機会であった。

西予市でもソフトボール競技が開催されたが、これも2017に開催された、えひめ国体で成年女子ソフトボール競技が宇和球場で開催されたことが大きく起因し、レガシーの一つといえる。開催にあたっての準備や運営もスムーズに行われ、令和8年度も女子ソフトボールの最高峰『JDリーグ』の開催が決定している。

スポーツマスターズ大会の開催は、スポーツを「する・見る・支える」という視点から意義深く、選手、観客、運営を支えるボランティアや地域の人、それぞれがスポーツを通じて新たな経験と感動を共有し、地域のスポーツ文化の醸成と発展につながることを期待している。

本大会は、本県のスポーツ振興にとって重要な意味を持つイベントであり、本県開催を追い風に、スポーツ立県えひめの実現に向けた取組みを更に加速させていかなければならない。

◎その他課題解決

自分が軸足を置いている防災減災対策をはじめ、人口減少対策や物価高騰対策、南予地域振興、社会資本整備など抱える課題は枚挙にいとまがない。現場の声を大切にしながら、政策展開や関係者に一つでも多くの果実が得られるように、今後もしっかりと活動していく。